

幸せへの方程式



2学年通信

vol. 6 2025. 12. 25(木)

東中祭を振り返って

「東中祭」が、10/31(金)に行われました。今年はステージ部門、パフォーマンス部門、装飾部門、展示部門と、4つの部門に分かれて活動を行いました。ときにはなかなかスムーズに進まないことがあっても、プロジェクトメンバーを中心に協力し合いながら前向きに取り組みました。その結果、見ごたえのあるすばらしい発表や作品づくりとなりました。

「東中祭を振り返って」生徒の作文を紹介します。

1組（装飾部門）

東中祭では、僕は装飾担当として体育館前の飾りつけを行いました。テーマに合う色やデザインをみんなで話し合いながら決め、限られた時間の中で作業を進めるのは大変でしたが、とてもやりがいがありました。特に、完成した装飾を見たときに、友達に「きれいだね」と言ってもらったことが1番うれしかったです。作業の途中では意見が合わないこともありましたが、話し合って協力することでより良いものを作ることができました。今回の経験を通して、チームワークの大切さや努力が形になる喜びを実感しました。来年はどこの部門に行っても頑張りたいと思います。

2組（展示部門）

今回の東中祭では、展示のプロジェクトリーダーをやらせてもらいました。最初は、あまり人がいなかったので、やるだけやってみようという感じでやりはじめました。その後、壁チームを担当することになりました、何回か作業をやっていくうちに、気づいたことがあります。それは、人を頼るということの重要性と大切さです。今までの自分は、1人で仕事をすることが多くて、あまり人に頼ることはませんでした。ですが今回は、人に頼るということを念頭に置いて作業をしました。なぜなら、1人で悩んだりしても、とても良いアイディアが出るわけもなく、メンバーに頼ってみた方がもっと良いアイディアが出て、もっと良い壁を作れると思ったからです。結果的に壁はギリギリで完成できました。今回の活動で、人に頼ることは決して悪いことではないということを改めて思いました。これから活動が色々あるので、みんなで協力して、良いものが作れたらしいです。

3組（パフォーマンス部門）

今年の東中祭で学んだことは、協力することです。パフォーマンス部門では全員で1つのものを完成させる必要があるので、よりみんなで団結するのが大切でした。練習中はトラブルもあり大変だったけど、プロジェクトメンバーがダンスを考えてくれたり、教えてくれた人に感謝しながら頑張りました。1つの作品を作るのでみんなでダンスのふりを覚えたり、髪型を考えたり、ふだんの学校生活じゃできないことをたくさんすることができて、すごく楽しかったです。1つの作品を作ることによって、全員とより仲良くなれたなと思いました。今回の東中祭でいろんなことを学ぶことができました。このことを生かして、クラスや学年全体が団結して、行事などで全員が楽しめるようになったらいいなと思いました。

（裏面・ステージ部門に続く）

4組（ステージ部門）

今年の東中祭を通して私は大きく変化したことがあります。それは自信です。ステージ部門になれてうれしくはありました、はじめは自信のなさから自分と役とのギャップに恐れ、笑われたくない、表現を最大まで出せずにいました。ですが、部門のみんなが全力で表現して、足りない部分も伝え合ってレベルを上げていっているのを見て、こんなちっぽけなことで悩んでいても申し訳ないと感じ、自分の中の演技への恥ずかしさやエゴを捨てて、全力で取り組むようになりました。

私は仲間のおかげで、周りの人々を信じて自信をつけることができました。そして本番でも、体育館を一体にして、見ている人を楽しませる劇ができたと思います。このメンバーでできてよかった。私にとってヒーローは、ステージ部門のみんなです。